



## 抱きしめられたい症候群

沼津市校長会長 浅倉博文（沼津市立金岡中学校）

私はよく、気になる子供たちのことを「抱きしめられたい症候群」と呼びます。問題行動を起こす子供たちに共通しているのは、どこかで、無条件に、抱きしめてもらえなかった寂しい過去を持っていることです。その寂しさを誰かに癒やしてほしくて、不器用な表れをしてしまうのではないのでしょうか。

小2のAさんは、毎朝児童玄関でひっくり返って大暴れ。校長室に運び、1時間ほど抱きかかえていると次第に体の緊張がほぐれてきて、手を離すと照れ笑いを浮かべて教室に行きました。Aさんはコミュニケーションに難があって、上手に自分の感情を伝えられず、そのうち癩癩<sup>かんしゃく</sup>を起こしてしまうのです。家族は暴れるAさんに手を焼き、困っていました。上の子が聞き分けのいい落ち着いた子だったので、なおさらAさんの行動にとまどったのでしょう。

中3のBさんは、夜の街で働く母親と小学校低学年の妹と暮らしています。Bさんが小学生だった頃、母親は下の子の子育てと夜の仕事で忙しくてBさんをあまりかまってくれませんでした。中学入学後は、夜間の外出がフリーなためBさんは先輩たちからの誘惑を断り切れず、数々の悪さを繰り返すようになりました。

このBさんとおしゃべりしている時、将来の話になりました。Bさんは、急にまじめな顔になり、「自分は働くことが嫌じゃないから、どんな仕事でもがんばって、お金を稼いで母親を楽にさせる。」ときっぱり言い切りました。いつも母親の悪口ばかり言っていて、逆らうことも多いBさんですが、心の底では家族が大好きなのでしょう。

どんな仕事がいいのか、どんな大人になりたいのか、いろいろ聞いていくと実に具体的に将来の夢を話すのです。「そうなるといいね。」と言うと、「初めて人にこんなことしゃべった。」と照れていました。

子供たちは様々な家庭に育ち、様々な重荷を背負っています。その荷物を代わりに背負ってあげることができませんが、何かあって抱きしめられなかった過去の代わりに、今、ぎゅっと抱きしめてあげられたらいいなあと思います。言葉で、そして温かいまなざしで。

# わたしの主張

令和2年度「沼津市わたしの主張大会」において入選した作品を、今回（10月号）と次回（11月号）に1作ずつ紹介します。

## 45.5%からの脱却

沼津市立片浜中学校 3年 町田 真綸

僕たちはあらゆる決断をすることで、未来を決定している。どんな未来が待っているかは、自らの決断によって左右される。ある統計から、中学生の54.5%が自身の将来は明るいと感じ、45.5%は将来を不安に感じていると答えている。僕は後者に該当する。だが、将来に不安を感じないための打開策がある。それは、確かな決断をすることだ。確かな決断から生まれた失敗は、軌道修正すればいい。成功からも失敗からも学べる。

では、もし自ら決断を下せないものがあつたとしたら……。成功でも失敗でもないものから将来への不安を打破できるのか……。

去年の十二月、かつて経験したことのないほど、多忙な毎日を送っていた。それは、読書嫌いな僕が唯一気に入った本について語ったビブリオバトルで、学校代表の一人に選ばれ出場した沼津大会で優勝し、全国大会への切符を掴んだからだ。それと並行し、部活動では吹奏楽部ソロコンテストの県大会に向けて練習していた。そして、一月の県大会で、自分の実力以上の力を発揮し、こちらも全国大会出場権を手に入れた。僕の人生の中でまさに絶頂期を迎えていた。このときはまだ新型コロナウイルスという暗雲が立ち込めているとは知る由もなかった。

ある日、突然学校が休校になり、友達に会うことも、外に出ることすらできなくなった。そして、嫌な予感的中した。二つの全国大会がまさかの中止に。最初に生まれたのは「怒り」だった。どうしてこうなってしまったのか。その怒りは普通とは違うものだった。自分の力不足で届かなかった訳ではない。自分が決断を誤った訳でもない。怒りの矛先が見つからなかった。成功も失敗も見出すことができない。無念だけが取り残されていた。あの頃が嘘のようだった。

当然、すぐに切り替えることができなかった。何をすればいいのかわからなくなっていき、遂には努力することに対しても不安になっていた。努力しても無駄になってしまうのではないかと。とにかく僕は答えを見つけようとした。五里霧中の状況にありながらも、とにかく現状を変えようと必死だった。そして、知らぬ間に「この

状況を憎む」ことと、「得たものを見出そうとする」ことを繰り返していた。「努力の成果を発表する場がないことへの虚しさ」「すべての経験は無駄だったのか」「普通の生活を返してほしい」「あの喜びは何だったのか……」そう悩んでいると、一つのことに気が付いた。

今までを振り返ると、僕は全国大会に出場することに喜びを感じていたが、そもそも目指すべきものがあることがとても尊いことなのかもしれない。あたりまえと捉えていたものがなくなり、初めてあたりまえが幸せであることに気が付いた。新型コロナウイルスによってなくなったあたりまえの日々がどれだけかけがえないものであったことか。僕だけに限らず、多くの人が「あたりまえ」の大切さに気付いたはずだ。二つの全国大会が失われたことに変わりはない。悔しさや虚しさは残るが、それだけではない。全国大会を目指して努力したあの日、友達と過ごす何気ない日々、そうした日常の大切さに気付けたことは今の僕に最も必要なものだったのかもしれない。

将来に不安を感じる45.5%の一人にならないために、日常に感謝する。日常があつたからこそ全国大会の道があつたのだ。自分の意志で決断できないことがあつたとしても、前を向いて、今この瞬間に感謝して生きていく心構えが大事なのだと思う。そして、そういう気持ちがあれば将来を明るく見通すことができると思う。54.5%の一人になれるのだ。たくさんものが失われたコロナ世代と言われる僕たちは、あたりまえの大切さにより一層気付くことを得た。そして、僕たちがこのウイルスと闘い続け、日常を取り戻していかなければならない。だからこそ、将来への希望をもって、明るい未来が待っていると信じなければならぬのではないかと。僕たち世代が。

中学校三年生の僕たちは、もうすぐ飛び立つ。義務教育という滑走路はもう長くはない。ただ進めることに感謝し、明るい未来が待っていると信じて、今日を生きていく。



# 面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など  
 青少年に関する面接相談。  
 ◎相談および申し込み受付時間：  
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎相談申し込み：TEL951-3440

## 令和2年6・7・8・9月の状況

各月の新規相談件数、相談ケース数、延べ相談回数は以下のとおりでした。

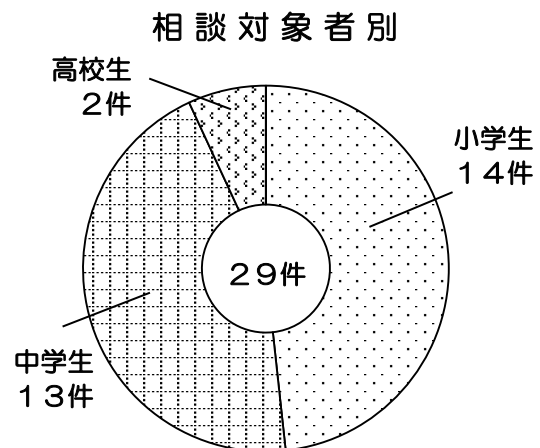
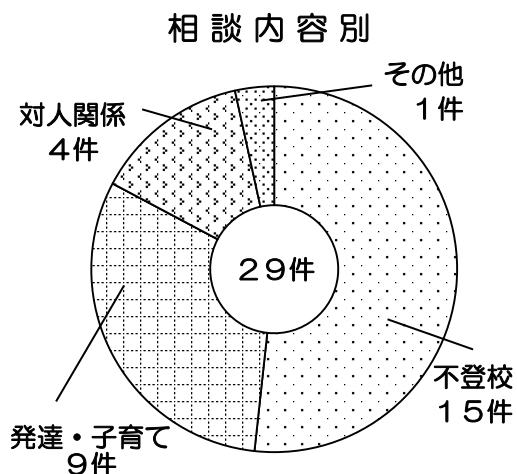
### 1 各月の新規相談件数（相談内容別）

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
6月	0	5	2	0	0	0	7
7月	0	5	3	0	4	1	13
8月	0	3	3	0	0	0	6
9月	0	2	1	0	0	0	3

### 2 各月の新規相談件数（相談対象者別）

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
6月	0	3	4	0	0	0	7
7月	0	4	8	1	0	0	13
8月	0	5	0	1	0	0	6
9月	0	2	1	0	0	0	3

### 3 4月から9月までの新規相談受付状況



4 6月から9月までの相談ケース数 ※年度における相談者1人を相談1ケースとする

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
男	0	24	12	2	0	1	39
女	0	22	5	0	5	0	32
合計	0	46	17	2	5	1	71

5 6月から9月までの延べ相談回数

	面接	訪問	合計
男	368	0	368
女	259	0	259
合計	627	0	627

6 はばたき活動の様子

9/11（金）点をつないでみよう  
（5人）

9/24（木）狩野川ウォーキング  
（1人）

はばたき活動は、1対1の面接相談とは違い、他の通所生、他の職員と関わる小集団活動です。今年度はコロナの影響で今まで実施できませんでしたが、9月からできる範囲で実施することにしました。

今年度初めての活動は、点をつないでどんな絵ができるかという活動をしました。同じ場所で同じ活動をするという体験をし、作品を通して人と関わることができました。

狩野川ウォーキングの参加者は1人でしたが、秋のさわやかな風の中、他の職員と会話をしながら散歩をしてきました。

これからも、このような形で工夫をしながらはばたき活動を行っていきたいと思います。

7 相談指導学級の様子

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月7日（火）より5月31日（日）まで、相談指導学級は臨時休級としました。その期間中に、通級希望の親子と面接を行うなど、子供たちがスムーズに入級できるように準備を進めました。開級できたのは6月1日（月）で、中学3年生が8人でのスタートとなりました。昨年の6月は中学2年生が4人でしたので、今年度のスタートは昨年度より多い人数となりました。

子供たちと職員全員が検温、マスクの着用、手洗いの習慣化を行うとともに、ソーシャルディスタンスの確保を意識し、三密を避けるため座席や活動の工夫をしています。体験活動は大きく制限され、これまで行ってきた、車に乗って移動する農園体験やハイキング、調理体験は中止し、屋内スポーツは屋外ウォーキングに変更しました。上記のように制約された不自由な環境の中ではありますが、子供たちは自分に合った活動計画を立て、通級を継続しています。希望者は、センター周辺のウォーキングやパズルぬりえ、ステンドグラス風工作等の創作活動に参加しました。

現在、11人の学級生が通級しています。相談指導学級は、今後も子供たちが生活リズムを整えたり、協調性を伸ばしたり、学ぶ意欲を高めたりできるよう、継続的な支援を行っていきます。

# 電話相談

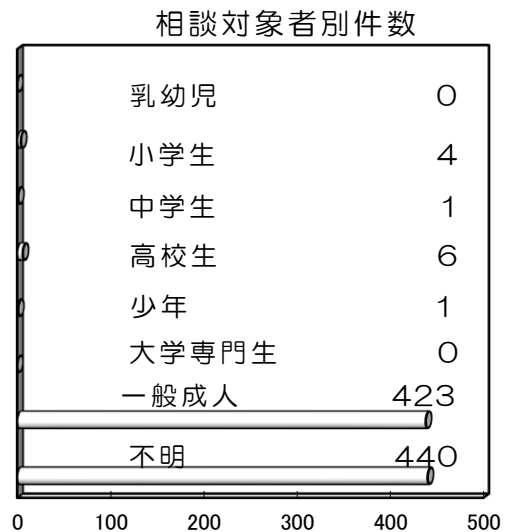


◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。  
 ◎相談時間：  
 午前10時～午後7時 月～金曜日(祝祭日を除く)  
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

## 令和2年7・8・9月の状況

7月には317件、8月には298件、9月には260件の相談が寄せられました。  
 (前年7月：374件、前年8月：306件、前年9月：207件)

### 1 7・8・9月の相談状況



### 2 令和2年度の電話相談受信件数状況

総件数 1,897件 (前年同期1,842件)

#### (1) 相談内容別

	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	1	6	17	0	11	5	875	982

#### (2) 相談対象者別

	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	6	2	8	1	0	880	1,000



# 補 導 雑 感

沼津市立沼津高等学校 生徒指導主事 勝間田文乃

今年は、新型コロナウイルス感染症対策に国中が追われています。学校現場でも、臨時休校、時差登校、学習保障、オンライン授業など、コロナに関連する様々な取り組みを行ってきました。

「新しい生活様式」が示され、学校が再開され、生徒は戸惑いながら「with コロナ」での生活に慣れてきている様子です。国内における行動制限が緩和され、中高生の活動範囲の広がりとともに、補導活動も再開されました。

生徒指導連絡協議会や街頭補導活動に長く関わらせていただいておりますが、利便性の追求とともに情報化が加速し、スマートな社会の構築が叫ばれる中、かつてのような未成年による飲酒や喫煙などの非行は減ってきたことを実感しています。代わってインターネットやSNS等にかかる使用のあり方が社会問題にまで発展しています。

詐欺、誹謗中傷、恐喝など、インターネットやSNS上での犯罪や問題行動を紙面にあげていくと気持ちが悪くなりますが、これはインターネットやSNS上だから起きているわけではありませんし、現代社会に特有のものでもありません。最新の機器やスマートな道具を使用し、手段は巧妙になっていますが……。問題の本質は変わらない、ということなのでしょう。

予測不能な困難な時代「複雑多岐」な社会であっても、人の本質が変わらないのだとしたら、教育も「理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す（『教育基本法前文』から）」という本質は変わらないのだと思います。

教育に携わる者として、大きなことは言えませんが、地道に一步一步、生徒の自己実現に向けて、自分のやるべきことを「単純明快」に粘り強く取り組んでいきたいと思っております。

## 1 少年補導委員の参加人数・補導回数・補導状況（4～9月）

	参 加 人 数						回 数				状 況		
	市 職 員	教 員	補 導 委 員	地 区 代 表	警 察	補 導 委 員 区	計	午 前	午 後	夜 間	計	の 不 良 行 為 等 の 確 認	愛 の 声 か け
4月	0	0	0	0	0	12	12	0	2	0	2	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	85	85	0	4	10	14	0	37
7月	2	3	0	0	0	41	46	0	1	5	6	15	8
8月	7	4	12	0	0	276	299	0	6	32	38	27	214
9月	10	14	15	1	0	320	360	3	16	41	60	51	157
合計	19	21	27	1	0	734	802	3	29	88	120	93	416

※コロナ対応のため、4～6月は中央街頭補導を中止しました。また、各地区の補導についても、中止した地区が多くありました。

## 2 4月～9月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

令和元年度末から引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、青少年を含め、多くの方が外出を自粛しました。9月になっても、駅周辺や大型商業施設内で見かける青少年の数はあまり増えていません。そんな中、各地区において、1グループの補導委員の人数を減らしたり、日時を変更したりするなど、様々な工夫・心遣いをしながら青少年の非行防止のために尽力して下さっていました。

学 職 別 区 分		性別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計
行 為 種 別	飲 酒	男							0
		女							0
	喫 煙	男							0
		女							0
	薬 物 乱 用	男							0
		女							0
	夜 間 は い か い	男			8				8
		女			2				2
	不 良 交 友	男							0
		女							0
	怠 学 ・ 怠 業	男							0
		女							0
	ゲームセンター入場	男	1	4	29				34
		女		2	38				40
パチンコ店入場	男							0	
	女							0	
カラオケ店入場	男							0	
	女							0	
自転車の暴走行為	男							0	
	女							0	
自転車の二人乗り	男						2	2	
	女							0	
自転車の無灯火	男			1				1	
	女							0	
危 険 な 遊 び	男							0	
	女							0	
そ の 他	男	4	1					5	
	女			1				1	
計	男	5	5	38	0	2	0	50	
	女	0	2	41	0	0	0	43	
男 女 合 計			5	7	79	0	2	0	93

法令違反・ ぐ犯行為に 関する連絡 ※	家庭・学校等	男							0
		女							0
	他 機 関	男							0
		女							0
男 女 合 計			0	0	0	0	0	0	0

※ぐ犯行為……将来、犯罪に発展するおそれのある行為

愛 の 声 か け 運 動	男	78	75	41		1		195
	女	98	86	37				221
男 女 合 計		176	161	78	0	1	0	416

## 令和2年度県内一斉夏季少年補導・立入調査

7月13日(月)を基準日として県内一斉夏季少年補導・立入調査を行いました。これは、県からの依頼を受け、ゲームセンター等を廻って補導活動を行うとともに、興行場(映画館等)、図書取扱店、深夜営業店、携帯電話販売店等、県条例に定められた青少年によからぬ影響を与える可能性のある店舗に対して立入調査を行うというものです。

今回は、コロナ禍によって補導活動を見合わせた地区もあり、例年よりも活動人数は少ないものの、総計374名の少年補導委員等が参加してくださり、充実した活動となりました。

### (1) 沼津市内の少年補導の結果

市内では、「不良行為」と呼ばれる「不健全娯楽」「喫煙」「不良交友」「暴走行為」「飲酒、薬物乱用等」「その他不良行為」は、すべてゼロでした。コロナの影響や梅雨のため、外出している子供たちそのものの人数も少なかったようです。また、最近ではタバコに対してのイメージが変わった(カッコイイから臭い、健康に悪い)ためか、「喫煙」をしている子供たちを見かけることはなくなりました。

### (2) 沼津市内の立入調査の結果

図書類取扱店としてコンビニ等約180店舗への調査を行いました。その結果、条例に違反している店舗はゼロでした。

コンビニでは、有害図書や不健全図書に類する雑誌を一切販売しなくなり、それに伴い区分陳列もなくなりました。また、愛鷹地区に大型総合店舗がオープンしたため、映画館、ゲームセンター、書店等、立入調査対象店舗が増えました。

今回の結果から、現在の市内の青少年を取り巻く環境と、子供たちの様子は大変落ち着いているようです。しかし、コロナのために外に出る機会が減り、ゲーム依存になったり、SNSによるトラブルが増えたりしているという情報が入っています。一日も早くコロナ禍が収束し、戸外で明るく元気に身体を動かしたり、安心して友達と一緒に遊んだりできる日が来ることを願います。活動に協力してくださった皆様、誠にありがとうございました。

## 青少年教育センターの活動予定 (11・12・1月の主な活動)

※新型コロナウイルス感染症予防を考え、中止や延期等の変更をすることがあります

相談指導学級体験活動		はばたき活動	
11月19日(木)	創作活動	11月10日(火)	創作活動
1月21日(木)	創作活動	25日(水)	買い物ツアー
補 導 関 係		12月2日(水)	} (状況に応じて活動内容を計画・実施する)
11月19日(木)	青パト講習会	16日(水)	
20日(金)	補導委員会代表者会	1月20日(水)	

## 明るい子どもが育つまち

青少年健全育成  
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています